

普及活動情勢報告（平成28年2月分）

高吾農業改良普及所

仁淀川流域の茶にエール！ ～利き茶最高段位の茶師が仁淀川茶を評価～



前田氏から産地ごとの
茶品質の違いを説明

1月23日、仁淀川流域茶産地振興協議会が、利き茶師最高段位十段の前田文男氏を招いて研修会を開催し、生産者ら約50名が参加しました。

講演では「仁淀川流域のお茶は、火入れした時の香りが強く、しっかりした味があり、他産地にはない特徴がある。高齢化や後継者問題など課題はあると思うが、頑張って良いお茶を作ってほしい」とエールを送りました。また、管内で生産された仕上げ茶16種を試飲し「うまみが強く、香りや品のある苦味が良い」などの評価とともに、火入れ方法などへのアドバイスがありました。

普及所は、研修会の企画段階から参画し、講師の招へい、日程調整など全面的に支援しました。今後も、仁淀川流域茶の生産・販売を推進のため、支援を継続していきます。

地域の伝承料理を次の世代に伝える ～佐川町生活改善グループが料理講習会開催～



「きらずもち」を丸めて整形中

1月27日、佐川町生活改善グループが高吾農業改良普及所を会場に佐川町の伝承料理講習会を開催し、佐川町内などから32名が参加しました。

グループ員が講師となり、佐川町の伝統的な料理である「きらずもち」や「山椒餅」など5品の料理法の説明と実習、試食を行いました。参加者からは「地域の料理の作り方を知れたかった」「参加してとても楽しかった」「初めて食べた料理もあったがとてもおいしかった」「またこのような研修会があれば参加したい」などの声がきかれました。

普及所では今後も伝承料理講習会開催など生活改善グループ活動支援を続けていきます。

「6次産業化による地域活性化」のために ～おおむら夢ファーム“シュシュ”の事例から～



熱心にメモを取りながら、
講演に耳を傾ける参加者

2月8日、当普及所では、長崎県大村市の複合型農業交流施設「おおむら夢ファーム“シュシュ”」の代表取締役、山口成美氏を講師に、「6次産業化による地域活性化」と題して研修会を開催し、生産者やJA職員、行政関係者など45名が参加しました。

講演では、施設運営の経緯や現在取り組んでいる観光農業などの紹介とともに、農業の6次産業化には女性の力が必要なこと、消費者側からの視点で考えることが重要と説明されました。また、「なにごとにもプラス思考で取り組むことが大事。6次産業化の可能性はどこにでもある。それを見つけて切り開いていく勇気を持ってほしい」と参加者にエールを送っていただきました。

普及所では研修会や様々な活動を行い、地域農業の6次産業化を支援していきます。

ニラ産地の維持・拡大に向けて、管内ニラ生産者の労働力調査を実施



聞き取り調査を実施

普及所ではＪＡと協力し、ニラ生産部４４名を対象に雇用労力と５年後の営農意向について個別聞き取り調査を行いました。

その結果、生産者の高齢化による栽培面積の減少、雇用労働力不足による規模拡大や新規就農者受け入れへの躊躇の実態が客観的に明らかとなりました。

また、現在設置を検討しているそぐりセンターへの委託希望量は、想定規模に対して少ない結果でしたが、併せて経費負担増大や出荷体制の変更など、不安に感じていることが分かりました。

普及所では、産地規模の維持・拡大に向け、これからも雇用の仕組み作りや機械の共同利用等による労働力不足の解決策について、ニラ生産部や関係機関とともに検討していきます。